

平成 25 年度 学 校 評 価

京丹波町立和咲小学校

学校経営方針	前年度の成果と課題	本年度の学校経営の重点	評 価	
			自己	関係
<p>【学校教育目標】 いつだって精いっぱい輝く わたしがすき・きみがすき</p> <p>【合言葉】 元気が一番 輝け 和知の子</p> <p>【めざす児童像】 わちのこ ≪育てたい3つの力≫（京都府振興プラン）との関係 「わ」： わたし・あなた、世界に一つの命 …≪展望する力≫ 「ち」： 小さなこと、毎日続けて大きな力 …≪挑戦する力≫ 「の」： のりこえて、たがいに認め合う仲間 …≪つながる力≫ 「こ」： このまちは、未来をつくる宝島 …≪包み込まれているという感覚の実感≫</p> <p>【学校経営方針（中期経営目標）】 (1) 質の高い学力を育む。 (2) 規範意識や人を思いやり尊重する心など、豊かな人間性を育む。 (3) たくましく健やかな身体を育む。 (4) 一人一人を大切に、個性や能力を最大限に伸ばす。 (5) 社会の変化に対応し、よりよい社会の構築に貢献できる力を育む。 (6) 学校の教育力の向上を図る。 (7) 安心・安全で充実した教育の環境を整備する。 (8) 全ての教育の出発点である家庭教育を支援する。 (9) 地域社会の力を活かして子どもを育む環境をつくる。 (10) 生涯学習社会の実現に向けて学習環境を充実させる。</p>	<p>【教育課程】 ◇年間指導計画に沿った指導の充実（特に総合的な学習の時間等教科外の指導の充実） ◇校種間連携の推進（特に授業レベルを念頭に置いた小中連携の推進）</p> <p>【学習指導】 ◇基礎基本の定着のための取組（すくすくタイム他）の充実 ◇互いに学び合う学習スタイルの確立（授業研究の充実） ◇発表力の向上（積極性、意欲、場に応じた声の大きさなど）</p> <p>【生徒指導】 ◇さらなる組織的な生徒指導の展開（課題を有する児童への働きかけ等） ◇あいさつ、廊下歩行、トイレのスリッパ揃えの3点は経年の課題</p> <p>【健康指導】 ◇基本的生活習慣の確立（早寝、早起き、朝ご飯） ◇食に関する指導の継承（実績の継承）</p> <p>【安全指導】 ◇登下校の安全指導（登校指導、下校パトロールの継続）、防災訓練の充実 ◇安心・安全な教育環境の整備（安全点検の継続）</p> <p>【地域連携】 ◇引き続き地域の教育資源を学校教育に積極的に取り入れる。 ◇学校支援と地域貢献の両面での連携強化</p> <p>【信頼される学校づくり】 ◇「報告・連絡・相談」の徹底と組織的な学校運営の充実 ◇学校情報の積極的な公開（学校・学級だより、ホームページ等）</p>	<p>本年度の学校経営の重点 ～「和と知につながる確かな学び」の創造～</p> <p>(1) 学習指導要領の趣旨に則り「京都府教育振興プラン」や府の「学校教育の重点」及び「京丹波町教育の指針」を活かした教育課程を編成し、計画的に実践する。</p> <p>(2) 基礎・基本に定着を図り、学習意欲を高めるとともに、知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育むことをとおして質の高い学力を育成する。</p> <p>(3) 多様な体験活動や集団活動を通して、豊かな感性と安定した情緒の育成を図るとともに、道徳等の指導により規範意識やコミュニケーション能力を高める指導を推進する。</p> <p>(4) 基本的生活習慣の確立と体力向上の取組、食に関する指導の充実をとおして、たくましく健やかな身体を育む。</p> <p>(5) 通学路を含む学校内外における危機管理・対策の充実を図ることにより、安心・安全で充実した教育環境の整備に努める。</p> <p>(6) 「報告」「連絡」「相談」の徹底によるきめ細かな指導体制を確立し、教職員の指導力の向上を図るとともに、学校情報の積極的な公開をとおして信頼される学校づくりをめざす。</p> <p>(7) 心身の発達や学習の連続性を重視した教育活動が展開できるよう児童・生徒の交流活動や教職員の合同研修等による校種間連携を積極的に推進する。</p> <p>(8) 地域による学校支援の取組を継承するとともに、学校による地域貢献の場の充実を図ることを通して、子どもの健全育成のための環境づくりを推進する。</p>	☆	☆
			B	A
			B	B
			B	B
			B	B
			B	A
			B	B
			B	B
			B	B

評価項目	重点目標	具体的方策（評価指標）	評価				成果と課題				
			中間	年度末	自己	関係者	自己評価	学校関係者評価			
(1)教育課程	学習指導要領の趣旨に則り、府教育振興プランに基づく府ならびに町の教育重点の基本理念を活かした教育課程を編成し、計画的に実践する。年間指導計画に沿った指導の充実と授業時間数の適切な進行管理	○学力状況的 に把握し、年間 計画に基づく特 色ある取組を国 語・算数科を重点 として展開する	○新学習指導要領・府教育振興 プランに基づく学習活動につ いての研修と実践をすすめ、検 証を行う。	◎「新学習指導要領・府教育振興プランに 基づく学習活動について研修と実践がすす められた」と、教職員の8割以上が実感 できれば「B」とする。 (指標：教職員自己評価等)	B	B	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・計画にそって概ね授業 など行うことができた。 今後も、児童の学力向上 に努めていく。 ・保護者の8割以上がわ かりやすく工夫した授業が なされていると感じている が、実質的な児童の学力向上 につなげることが今後の課 題である。 ・どの教科・領域ともに標 準時数を確保できた。 ・今後も家庭との連携を 図り、学習の準備や土曜 活用を計画的に進めてい く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜日活用について、保 護者の反応を把握しなが ら有意義な活用ができた。 ・土曜活用での「遠足」「 伝統文化」「人権学習」に 関して多数の保護者から 良い評価の意見がある。 ・家庭地域への発信力を更 に高め、土曜活用による校 区の一体感の醸成にも期 待したい。 ・クラブ活動における伝統 芸能への取組等が地域か ら高い評価を得ている。 	
		○京都府学力診断テストなど の結果を踏まえ、授業改善を図 り、わかりやすく工夫した授業 を行う。	◎「学級では、わかりやすく工夫した授業 をしている」と、教職員や保護者の8割以 上が実感できれば「B」とする。 (指標：教職員・保護者アンケート)	B							B
		○月ごとの授業時数集計を指 標として、計画的に学習指導要 領が示す年間授業時数以上を 実施する。	◎全教科・領域ともに標準時数を 超えて実施できれば「B」とする。 (指標：授業時数集計)	B							B
		○特別活動や総 合的な学習の時 間等教科外の指 導を充実させる ことにより魅力 ある学校づくり を推進する。	◎土曜日活用による学校行事 の開催や伝統・文化及び自らの 思いや願いを大切にしたいクラ ブ活動を実施する。 (指標：児童・保護者アンケート) ◎「ねらい等」を記入した週案 を作成するとともに、児童・保 護者が学習活動の準備等に活 用する。	◎土曜日活用による学校行事やクラブ活 動について、肯定的な意見が8割以上あ れば「B」とする。 (指標：児童・保護者アンケート) ◎週学習計画により、授業準備ができて いる児童が8割以上あれば「B」とする。 (指標：教師の観察、児童アンケート)							B
(2)学習指導	基礎基本の定 着を図り、学習 意欲を高めると ともに、活用 する力を育成 することをお して質の高い 学力をめざ す。一和知小学 びのメソッド の確立による 学力向上、「和 と知につながる 確かな学び」 の 追究と発展	○一人一人の学 力の状況に応 じた学習方法 の工夫をする。	○本校の重点研究を積極的に 推進し、「和と知につながる確 かな学び」をめざして、互いに 学び合う学習スタイルを確立 する。	◎教職員の8割以上が工夫できたと実感 できれば「B」とする。 (指標：教師自己評価)	B	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じて伝え合 う、学び合うスタイルにつ いて研究をすすめること ができた。今後もさらに 学びあう児童の育成に努 めると感じる。 ・グループで発表の時でも 各児童が分担し、意見を述 べる指導がされており、互 いに学び合う学習スタイル が確立されてきている と感じます。 ・授業参観の中で、それ ぞれの学年に応じた指導が 良い意味で厳しくもあり、 やさしさも感じる内容だ った。学年の垣根を越えた 指導体制も良い連携であ った。 ・ノート指導が良くなされ ている。 ・教職員の工夫が生かされ 、個々の児童を見つめた指 導ができている。児童の顔 がその場その場で良い顔 をしていることにその成 果を感じる。 		
		○基礎・基本の徹 底、知識・技能を 活用する学習活 動の充実を図り、 質の高い学力を めざす。	○学習意欲を高め、「わかる授業」 を工夫して行い、基礎的・ 基本的な内容の定着を図りな がら質の高い学力につなぐ。	◎通信簿で、以下なら「B」とする。 ・低学年は、「○」「◎」が全体の8割以 上 ・中学年は、評定平均が「3.2」以上 ・高学年は、評定平均が「3.2」以上 (指標：通信簿の評定)	B	B					
		○「算数ナビター」など、学 習支援教材を活用して学習習 慣の定着を図る。	◎教師の観察により、8割以上の児童に学 習習慣が定着していると判断できれば、「 B」とする。(指標：教師の観察・はなま るくんめんきょ) ◎家庭学習の習慣が身に付いていると実 感できている保護者が8割以上い れば、「B」とする。 (指標：保護者アンケート)	◎教師の観察により、8割以上の児童に学 習習慣が定着していると判断できれば、「 B」とする。(指標：教師の観察・はなま るくんめんきょ) ◎家庭学習の習慣が身に付いていると実 感できている保護者が8割以上い れば、「B」とする。 (指標：保護者アンケート)	B	B					

(3) 生徒指導	豊かな感性、情緒の育成を図り規範意識やコミュニケーション能力を高めることにより、社会性の育成をめざす。 一挨拶・廊下歩行・スリッパ揃え等の指導徹底	○生徒指導の3機能（自己決定・共感的人間関係・自己存在感）が生きた教育活動を推進する。	○問題解決的学習を進め、児童の興味や関心、自主性、創造性を大切にす。	◎「やればできる」と感じている児童が7割以上いれば「B」とする。 (指標：児童アンケート)	B	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「やればできる」と感じている児童について、数値自体は下がっているが現時点でも9割を超える児童ができていて感じている。 ・「困ったり不安なときには、相談したり話したりする友達がいる」と感じている児童が7割以上いれば「B」とする。 ・「迷ったとき自分で判断して決めている」と感じている児童が7割以上いれば「B」とする。 (指標：児童アンケート) ◎学校で、廊下歩行・スリッパ揃え・登下校の列など生活のルールが守れていると判断している児童が8割以上いれば「B」とする。 (指標：児童アンケート、教師の観察) ◎教師の日常的な児童観察により、7割の児童がルールを守っていると判断できれば「B」とする。 (指標：教師の観察、記録) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「やればできる」と感じられた。児童の興味・関心、自主性がどの学年も見られた。 ・家庭内や地域でのルールづくりに参画させることの大切さを教えたい。 ・「やればできる」という意識を持つ児童が多くいることは大変素晴らしく、向上心を生む上で重要なことであることは間違いなく、是非、継続して指導していただきたい。 ・先生方の指導が児童のやる気をうまく引き出せていると感じる。
		○自分の意見や考えをしっかりと話したり、友だちの意見をしっかりと聞いたりする話し合いの場を計画的に設定する。	◎「困ったり不安なときには、相談したり話したりする友達がいる」と感じている児童が7割以上いれば「B」とする。 (指標：児童アンケート)	B	B					
		○朝の会、終わりの会を大切に、日常生活の中で自分の生活を見つめ、課題を明らかにし、自らの手で解決していく力を育てる。	◎「迷ったとき自分で判断して決めている」と感じている児童が7割以上いれば「B」とする。 (指標：児童アンケート)	B	B					
		○児童の生活に関わるきまりを明確に示す。 ○重点期間を設け、児童の意識を高める取組を進める。(廊下歩行・スリッパ揃え等)	◎学校で、廊下歩行・スリッパ揃え・登下校の列など生活のルールが守れていると判断している児童が8割以上いれば「B」とする。 (指標：児童アンケート、教師の観察)	C	C					
		○学習規律を確立し徹底させる。	◎教師の日常的な児童観察により、7割の児童がルールを守っていると判断できれば「B」とする。 (指標：教師の観察、記録)	B	B					
(4) 保健指導	健康と体力づくり、食育の推進を図り、たくましい身体をはぐくむ。 一朝マラソンの継続した取組・食に関する指導の充実	○思いやりのある豊かな心を育てる。	○相手を思いやる心の表れの第一歩として、朝のあいさつが心を込めてできるように指導していく。	◎朝のあいさつが自ら進んで言う児童が8割以上いれば「B」とする。 (指標：児童アンケート、教師の実感)	C	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動（チェック）の取組の効果は、見られるのではないかと考える。但し、交通モニターでの保護者の意見は「あいさつの声が小さい。」との感想もある。 ・学級が楽しいと感じている児童については、100%を目指したい。但し、児童アンケートは「学校は・・・」となっているので若干の差異はある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域でのあいさつは、通学班によって多少差異が見られるがおおむね良しと考える。 ・アンケートの「児童間で相談できる」児童が多くあることは、学校生活での問題行動の早期発見につながる。
		○温かい人間関係を基本にした学級づくりをする。	○道徳の指導や学校行事や学級遊び、全校遊びなど体軸的な活動を通して、社会性の伸長に努める。	◎学級が楽しいと感じている児童が7割以上いれば「B」とする。 (指標：児童アンケート)	B	B				
		○始業前の朝マラソンや朝なわとびの活動を推進し、体力作りに積極的に取り組ませる。 ○「食」の指導計画に基づき、食育の系統だった指導の充実を図る。	○始業前の時間を活用してマラソン（4～11月）なわとび（12～2月）を実施し、各自が目標を持って基礎体力を養う。	◎目標をもって体力作りができたと判断している児童が8割以上いれば「B」とする。 (指標：児童アンケート、教師の観察)	B	B				
		○食に関する年間指導計画に基づき、栄養教諭及び食育支援部会等の方々との連携し、指導の充実を図る。	◎教職員の8割以上が年間指導計画に基づいてできていると実感できれば「B」とする。 (指標：教師自己評価)	B	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・児童は、9割以上が目標に向けてがんばれたと実感しており、教師の観察でも各自の力に応じてしっかり走っていたと感じた。 ・食に関する指導の実践について学年によるばらつきがあったが総合的に判断してBとする。 ・各教科、領域の段階で整理していく必要があると考える。（特に総合的な学習および生活科との関係） 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力づくりについては、学校だよりや保護者アンケートを見る中で十分児童の体力の向上に対する指導がされている。 ・マラソン大会でも十分に成果がでていた。 ・学校での生活では、できていても家庭でできているか実態として不明であり、学校と家庭の連携を一層進めていただきたい。とりわけ食に関しては、きわめて大切であると感じる。 	

		○基本的な生活習慣の大切さを知らせ、日々の生活に生かせるよう指導する。	○児童の実態に合わせて児童の良さと改善すべき所を整理しながらよりよい生活を実践しようとする態度を養う。	◎学年の発達段階に応じて生活習慣の大切さを理解し、健康な生活が送れている児童が7割以上ならば「B」とす。 (指標：保護者アンケート) A+B=82%	B	B		・概ね生活習慣の大切さを理解し、健康な生活が送れているといえる。		
		○学校保健会議を開催し、関係機関との連携を図る。	○学校保健会議を開催し、PTAや学校三師等とともに児童の健康や安全について協議する。	◎学校保健会議を開催し、児童の健康・安全について連携を深めることができれば「B」とする。 (指標：教職員の自己評価)	C	B		・10月22日に開催できた。		
(5)安全管理	通学路を含む学校内外の危機管理・安全対策の充実を図ることにより、安心安全で充実した教育環境の整備につとめる。 一防災対策・危機管理訓練の工夫推進、安全点検の定期的な実施等	○防災対策マニュアルに基づき避難訓練を実施し、自らの安全を守ろうとする意識を高める。	○防災対策マニュアルに基づいて避難訓練を実施し、地震・火災・洪水などの災害に対する基礎知識や実践力を身につけさせる。 ○消防署など関係機関と連携し、より実践的な体験活動を取り入れる。	◎決められた安全行動がとれた児童が8割以上ならば「B」とする。 (指標：避難訓練計画書、教職員の観察)	B	B	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・夏に職員研修で知恵を出し合い、それをもとにしてプランを練り、不審者、地震の訓練ができた。 ・児童アンケートによると8割以上の児童が並んで登校していると感じている。客観的には、やや課題のある通学班もみうけられる。 ・毎月の点検とその後の修理など適切に行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「受け渡し下校訓練の実施」「不審者への対応訓練」など行われ、今年度は警報発令に伴い実際に「受け渡し下校」が行われたが訓練の成果があった。 ・災害時の訓練を教職員が中心に調査研究をしながら継続的に行われたい。 ・通学班によって登下校の状態は多少差があるが、おおむね良好である。
		○日常的、定期的に登下校指導を行い、身を守るための交通安全などの意識を高める。	○必要に応じて登下校指導を行い、児童の身を守るため、どのように気を付けたらよいか考えさせる。	◎並んで登下校している児童が7割以上ならば「B」とする。 (指標：通学班会、教職員の観察・指導)	B	B				
		○安全点検を定期的に実施する。	○遊具等の遊び方のルールを守れているかを見るときに、毎月1回安全点検を実施する。また、登校指導と合わせて、保護者とも連携して、通学路の安全確認を行う。	◎毎月1回、安全点検を実施し、必要な対策を行うことができれば「B」とする。 (指標：安全点検表)	B	A				
(6)学校組織体制の強化 (信頼される学校づくり)	「報告・連絡・相談」の徹底によるきめ細やかな指導体制を確立し、教職員の指導力の向上を図るとともに、学校情報の積極的な公開等とおして信頼される学校づくりをめざす。 一HP・学校・学級だよりによる家庭地域への情報発信の工夫、各教職員のより積極的な職務遂行及び学校経営参画意識の向上	○教職員間の報告・連絡・相談を徹底し、組織の強化を図る。	○教職員間の報告・連絡・相談を徹底し、組織の強化を図る。	◎教職員間で報告・連絡・相談を意識して行い、組織の強化につながったと判断すれば「B」とする。 (指標：年度末総括)	B	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・特に懸案事項や緊急性のあるものなど報・連・相ができた。 ・それぞれの部、担当が主体的に行事の企画・運営や日常の取組を推進できた。 ・対外的な研修会の機会も多く、参加した。大切と判断したものについては、職員会議、校内研修の時に報告できた。 ・保護者アンケートで多くの保護者が経営方針を反映していると考えている。 ・ホームページについてはなかなか定期的な更新ができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりの全戸配布により、児童のそれぞれの取組の姿や未来を作り上げる子どもたちの強さが伝わった。 ・校長先生を中心とし、先生方一体となり、児童のため学校を盛り上げて頂いている。 ・「報告・連絡・相談」を日常的に実践することが、教師の資質、及び教師間の信頼、と学校組織の向上に繋がり、地域からの信頼も一層深まる。
		○3つの領域部会、各学年、研究推進委員会、各種プロジェクト会議が主体的、かつ、連携をとりながら活動し、PDCAサイクルの確立を図る。	○3つの領域部会、各学年、研究推進委員会、各種プロジェクト会議が主体的、かつ、連携をとりながら活動し、PDCAサイクルの確立を図る。	◎3つの領域部会、各学年、研究推進委員会、各種プロジェクト会議が主体的、かつ、連携をとりながら活動できていると判断すれば「B」とする。 (指標：年度末総括)	B	B				
		○総合教育センター、府・南丹小教研等の研修に積極的に参加する。	○総合教育センター、府・南丹小教研等の研修に積極的に参加し、学んだことを積極的に伝達する。	◎研修会に積極的に参加し、学んだことを教職員に伝達すれば「B」とする。 (指標：出席状況、研修報告)	B	B				
		○経営方針を反映した学校・学年だより等を発行する。	○学校経営方針を反映した学校・学年だより等を発行し、PTA活動の内容も知らせる。	◎保護者アンケートや学校評価委員会で経営方針を反映していると判断されたら「B」とする。 (指標：保護者アンケート、学校だより綴)	B	B				
		○学校の教育内容をホームページで紹介する。	○教育内容を紹介するホームページ(学校・学年等)を公開し、週1回以上更新する。	◎ホームページが、週1回以上更新できれば「B」とする。 (指標：本校ホームページ)	B	C				

